

# 北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

## I. 調 査 要 領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和5年1月31日

(2) 調査対象期間 令和4年10月～12月期実績および令和5年1月～3月期見通しについて調査した。

### 2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社をインターネット (Google forms)、FAX により調査した。

### 3. 回収状況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	24社	80.0%
建 設 業	30社	24社	80.0%
卸 売 業	30社	22社	73.3%
小 売 業	35社	26社	74.3%
サービス業	25社	15社	60.0%
合 計	150社	111社	74.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス (景気動向指数) で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

## Ⅱ．概 況

### 《 全 体 の 動 き 》

令和4年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」28.8%、「悪化企業」38.7%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△9.9となっています。

前年同期（△17.8）との比較では7.9ポイントの改善傾向を示しました。また、前期調査<令和4年度第Ⅱ四半期>と比較してみると前回△17.4→今回△9.9と7.5ポイントの改善傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値8.3、建設業D・I値△37.5、卸売業D・I値△4.5、小売業D・I値△11.5、サービス業D・I値0.0となっており、前年同期調査と比較すると、建設業が7.1ポイント、サービス業が5.9ポイント、卸売業が4.5ポイントの悪化が見られました。一方で、小売業が32.5ポイント、製造業で21.3ポイントの大幅な改善傾向を示しましたが、後半に記載のフリーアンサーにおいて、原材料やエネルギー価格の高騰が前回調査に引き続き企業活動に大きく影響を与えていることが伺えます。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」16.2%、「悪化企業」33.3%でD・I値△17.1と、前年同期見通し（△29.5）に比べ12.4ポイントの改善傾向を示していますが、D・I値は未だマイナスを示し、先行き見通しに不安がある状況となっています。

### 《 業 種 別 の 動 き 》

#### 1) 製 造 業

##### 生 産 高

前年比で「増加企業」25.0%、「減少企業」33.3%、D・I値△8.3と前年同期（△30.4）に比べ22.1ポイントの大幅な改善となりました。

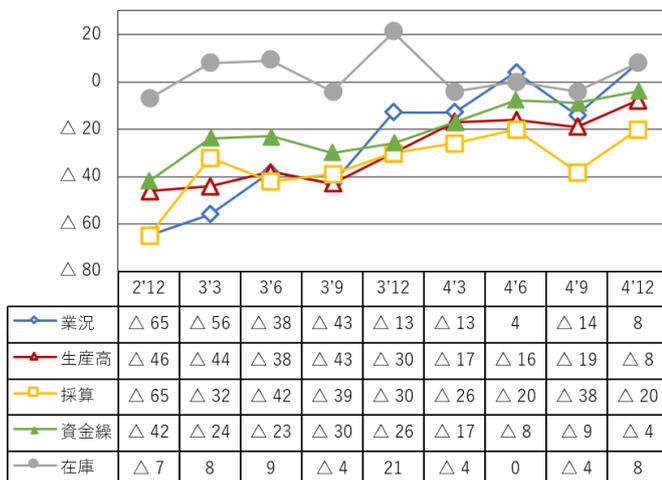
##### 採 算

前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」45.8%、D・I値△20.8と前年同期（△30.4）に比べ9.6ポイントの改善となりました。

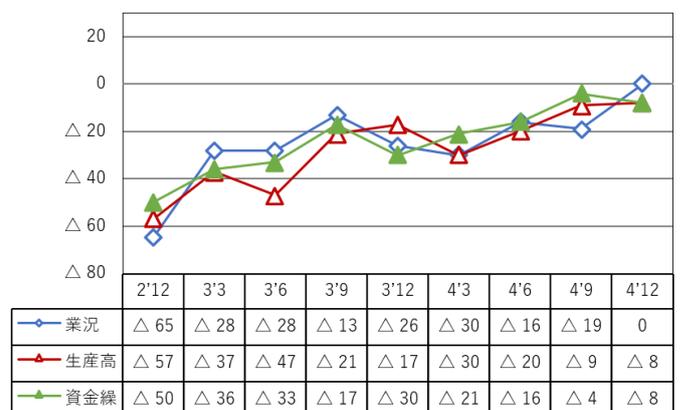
##### 来期見通し

業況D・I値0.0（前年同期△26.1）、生産高△8.4（同△17.4）、資金繰り△8.3（同△30.4）と、前年同期に比べ全てのD・I値で大幅な改善の来期見通しとなっています。

前年同期比 D・I値図表



来期見通し D・I値図表



## 2) 建設業

### 完成工事高

前年比で「増加企業」16.7%、「減少企業」50.0%、D・I値△33.3と、前年同期(△47.8)に比べ14.5ポイントの改善傾向となりました。

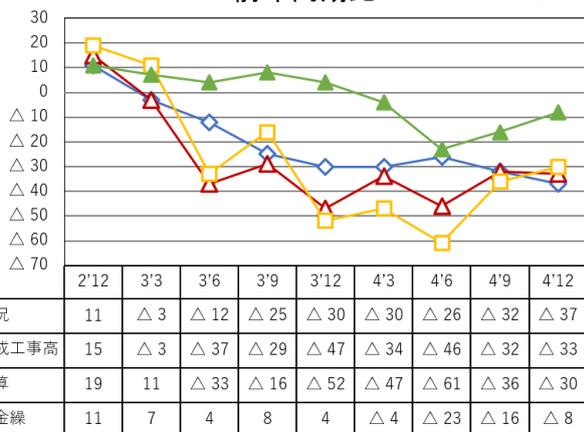
### 採算

前年比で「好転企業」13.0%、「悪化企業」43.5%、D・I値△30.5と、前年同期(△52.2)に比べて21.7ポイントの大幅な改善傾向を示しました。

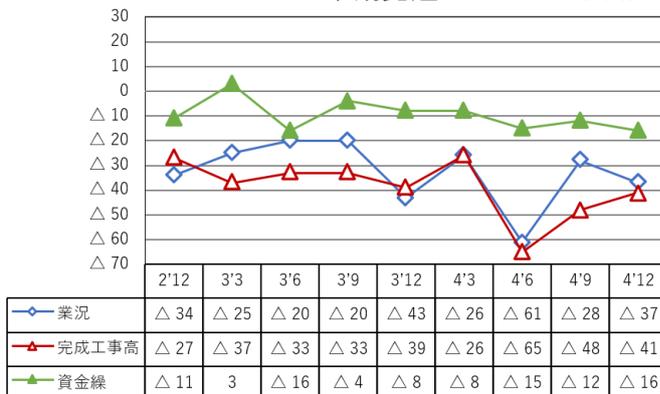
### 来期見通し

業況D・I値△37.5(前年同期△43.5)、完成工事高△41.6(同△39.1)、資金繰り△16.7(同△8.7)と前年同期と比べわずかに業況は改善、売上、資金繰りは悪化の来期見通しとなっています。

前年同期比 D・I値図表



来期見通し D・I値図表



## 3) 卸売業

### 売上高

前年比で「増加企業」40.9%、「減少企業」27.3%、D・I値13.6と前年同期(4.2)と比べ9.4ポイントと好転傾向を示しました。

### 採算

前年比で「好転企業」36.4%、「悪化企業」22.7%、D・I値13.7と前年同期(△4.2)に比べ17.9ポイントの好転を示しました。

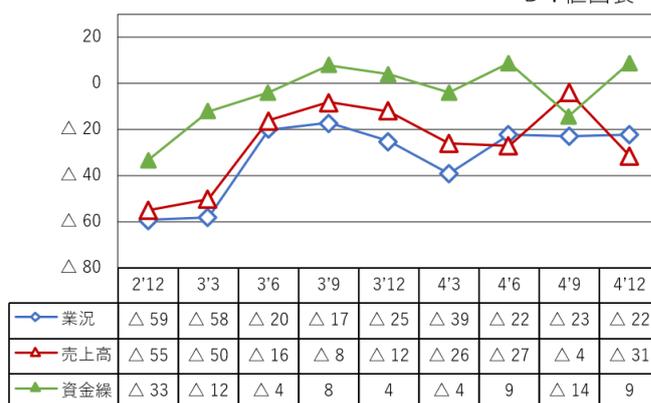
### 来期見通し

業況D・I値△22.8(前年同期△25.0)、売上高△31.9(同△12.5)、資金繰り9.1(同4.2)と前年同期に比べ売上のみ悪化、業況と資金繰りは改善の来期見通しとなっています。

前年同期比 D・I値図表



来期見通し D・I値図表



#### 4) 小売業

##### 売上高

前年比で「増加企業」30.8%「減少企業」38.5%、  
D・I値△7.7と前年同期(△40.0)に比べ32.3ポイントの  
大幅な改善となりました。

##### 採算

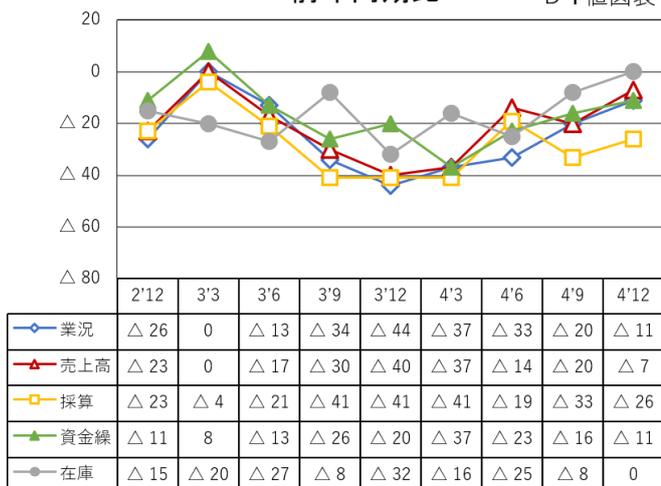
前年比で「好転企業」23.1%「悪化企業」50.0%、  
D・I値△26.9と前年同期(△41.7)から14.8ポイントの  
改善傾向を示しました。

##### 来期見通し

業況D・I値△7.7(前年同期△32.0)、売上高△15.4(同  
△32.0)、資金繰り11.6(同△16.0)と前年同期と比べ全て  
で改善見通しとなっています。

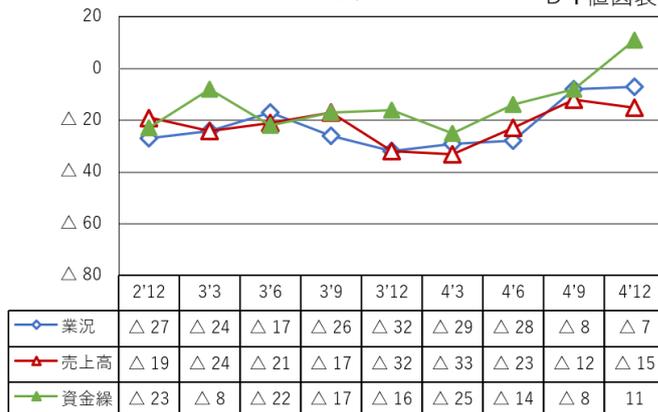
前年同期比

D-I値図表



来期見通し

D-I値図表



#### 5) サービス業

##### 売上高

前年比で「増加企業」40.0%、「減少企業」26.7%、  
D・I値13.3と、前年同期(0.0)に比べ13.3ポイントの改善  
を示しました。

##### 採算

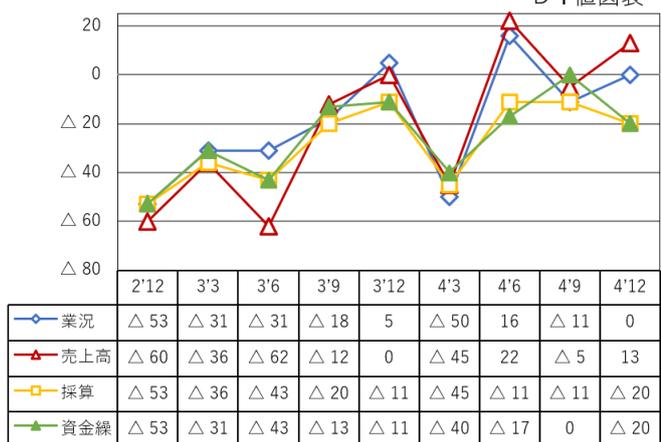
前年比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」40.0%、  
D・I値△20.0と前年同期(△11.8)に比べ、8.2ポイントの  
悪化を示しました。

##### 来期見通し

業況D・I値△20.0(前年同期△17.6)、売上高0.0(同△  
17.6)、資金繰り△13.4(同△11.8)と前年同期に比べ、業  
況、資金繰りで悪化、売上で改善見通しとなっています。

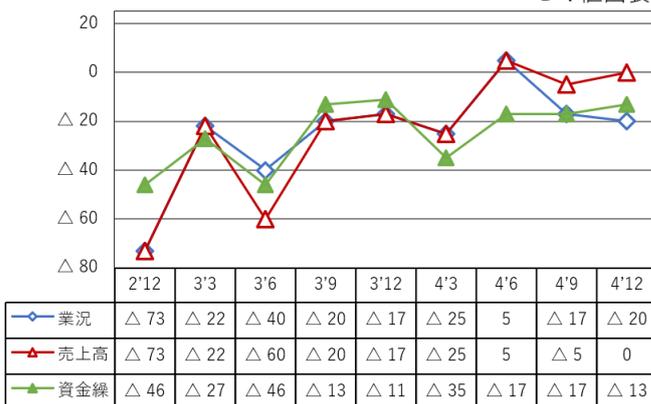
前年同期比

D-I値図表

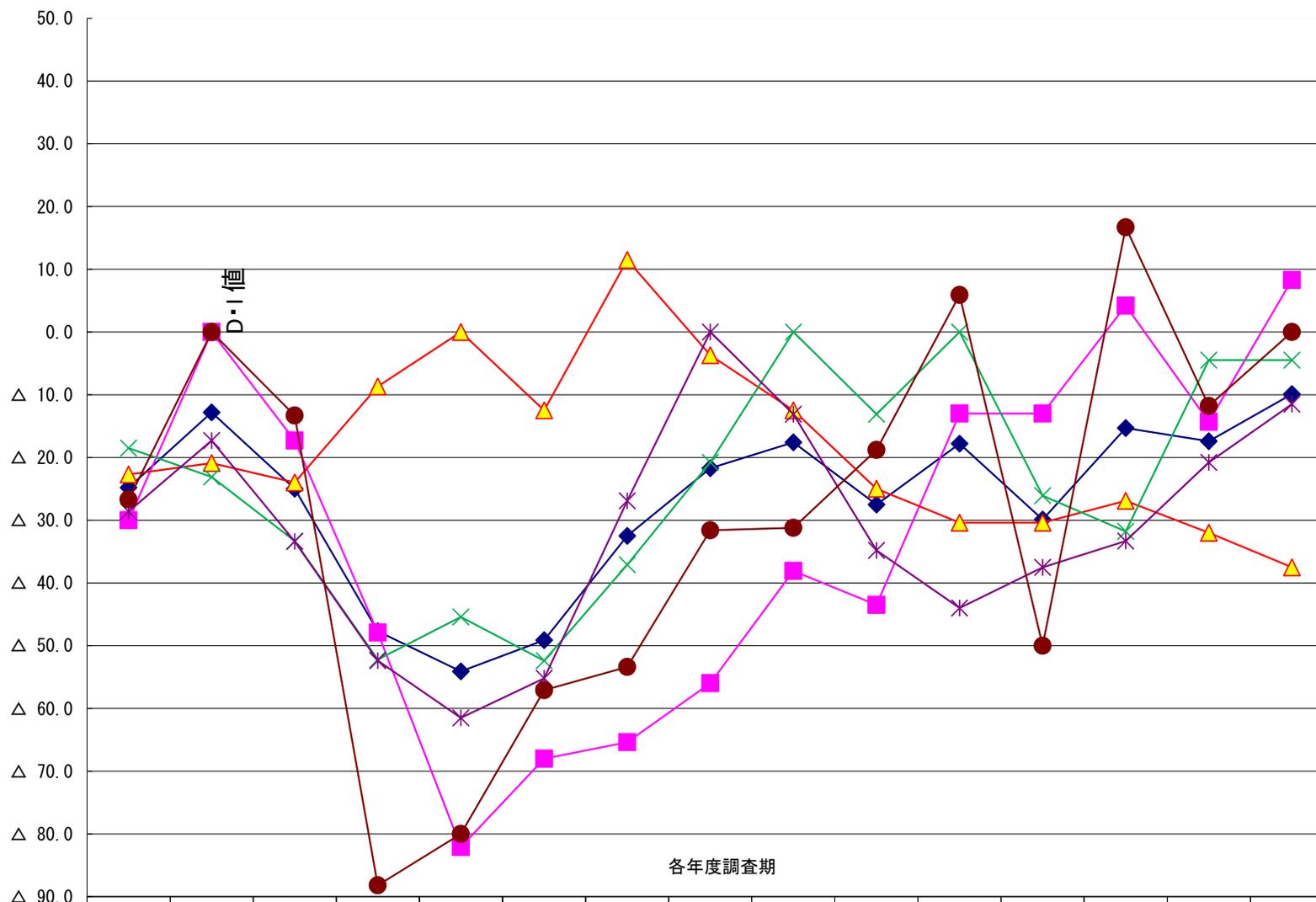


来期見通し

D-I値図表



# 各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



	31.4~1.6 令和元年度 I	1.7~1.9 令和元年度 II	1.10~1.12 令和元年度 III	2.1~2.3 令和元年度 IV	2.4~2.6 令和2年度 I	2.7~2.9 令和2年度 II	2.10~2.12 令和2年度 III	3.1~3.3 令和2年度 IV	3.4~3.6 令和3年度 I	3.7~3.9 令和3年度 II	3.10~3.12 令和3年度 III	4.1~4.3 令和3年度 IV	4.4~4.6 令和4年度 I	4.7~4.9 令和4年度 II	4.10~4.12 令和4年度 III
全業種	△ 24.8	△ 12.8	△ 25.0	△ 47.7	△ 54.1	△ 49.1	△ 32.5	△ 21.7	△ 17.6	△ 27.5	△ 17.8	△ 29.9	△ 15.3	△ 17.4	△ 9.9
製造業	△ 30.0	0.0	△ 17.3	△ 47.9	△ 82.1	△ 68.0	△ 65.4	△ 56.0	△ 38.1	△ 43.5	△ 13.0	△ 13.0	4.2	△ 14.3	8.3
建設業	△ 22.7	△ 20.9	△ 24.0	△ 8.7	0.0	△ 12.5	11.5	△ 3.7	△ 12.5	△ 25.0	△ 30.4	△ 30.4	△ 26.9	△ 32.0	△ 37.5
卸売業	△ 18.5	△ 23.1	△ 33.3	△ 52.2	△ 45.4	△ 52.4	△ 37.1	△ 20.8	0.0	△ 13.1	0.0	△ 26.1	△ 31.8	△ 4.5	△ 4.5
小売業	△ 28.6	△ 17.3	△ 33.4	△ 52.4	△ 61.5	△ 55.2	△ 26.9	0.0	△ 13.1	△ 34.8	△ 44.0	△ 37.5	△ 33.3	△ 20.8	△ 11.5
サービス業	△ 26.7	0.0	△ 13.3	△ 88.2	△ 80.0	△ 57.1	△ 53.4	△ 31.6	△ 31.2	△ 18.8	5.9	△ 50.0	16.7	△ 11.8	0.0

## 業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	人 件 費 増	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合
卸 売 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合
小 売 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同業者間の競合
合 計	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

全業種でみると、前回調査に引き続きトップ5までの順位に変動はなく、トップの「諸経費増」、2位の「人材不足」、3位の「人件費増」が4期連続で経営上の問題点として挙げられています。

また、業種別でみると、製造業、卸売業、小売業、サービス業で「諸経費増」がトップとなっており、建設業で「人材不足」がトップでした。

ウクライナ情勢や円安の影響が長期的に企業活動へ大きな影響を与えていることが伺えます。

## 業 況

製造業 ⇒ 好転 (建設用金属製品、菓子、農産物加工、ビール製造、一般製材、  
スクリーン印刷・看板、鋳物製品、石材加工、農機械金属用製品、)  
悪化 (印刷、木製品、製麺、石灰製品、帆布製品)

建設業 ⇒ 好転 (板金)  
悪化 (土木、建築、とび土工、舗装、設計、塗装、造園)

卸売業 ⇒ 好転 (ユニフォーム、機械工具、自動車ガラス、電子事務機器、牛・豚等内臓肉、  
種苗・肥料)  
悪化 (鉄鋼、建築金物、家電、介護福祉機器、化粧品、米穀、一般菓子)

小売業 ⇒ 好転 (食料品、農業機器、灯油、家具、靴、眼鏡、生花、コンビニエンスストア)  
悪化 (生花、画材、日用雑貨、米穀、食肉、パン、菓子、酒類、お茶、)

サービス業 ⇒ 好転 (ホテル、レンタカー)  
悪化 (飲食、理容、建物清掃)

(※太字アンダーライン表示は重複該当業種)

## ※その他及び具体的な業界の問題点についての記載事項

### ① 物資・流通への影響

- 円安や原油高による原材料、包材等の仕入価格高騰（製造業他 2 件、建設業 2 件、卸売業 1 件、小売業 1 件）
- 仕入の原材料が昨年より 20%前後高くなっている。それも年に 2 回も上がる物も出てきている。（製造業）
- アスファルト合材の生産コスト高（製造業）
- 仕入価格高騰による利益減少（卸売業他 1 件、小売業 1 件）
- 食料品の値上げによる仕入増など懸念材料が多い（サービス業）
- 半導体使用機器の入荷が遅れ最終工期の設定、調整にも影響がある（建設業）
- 建設資材の遅れによる工期の予定が立たず、見込みが出来ない。（建設業）
- 海外のロックダウン、為替等の影響で納期遅延と値上がりが顕著だった。（卸売業）
- 原料価格の変動が大きく、商品調達が困難。加えて、末端のお客様への価格転嫁も厳しい。（卸売業）
- 用紙類の値上がりが激しく、価格転嫁での対応だけでは今後の販売方法や顧客対応が大きな課題（卸売業）
- 新車・中古車共に在庫不足（小売業）

### ② エネルギー価格高騰による影響

- 電気料金の高騰は馬鹿にならない。暫定的に原発を再稼働して、電気料金を下げて欲しい。（製造業）
- 特に電気代の高騰は溶鉱炉を持つ会社としては致命的。北電には次回契約更新時には高压の契約による特別割引は撤廃と宣告されている。先行きはさらに暗くなり商品の価格をいくら上げても追いつかない。（製造業）
- 運賃や加工費の値上げにより収益面で影響があった。（卸売業他 1 件、小売業 1 件）
- エネルギー価格高騰による経費増（サービス業他 1 件）

### ③ 人材不足の影響

- 人材は欲しいが、人を雇う程の仕事量が無い、厳しい時代（製造業）
- 人材不足の中での休日や労働時間に問題がある（小売業）
- 人材不足による人件費増（建設業）

### ④ 新型コロナウイルス感染症による影響

- コロナ感染、学級閉鎖等によるマンパワーの不足（小売業）
- 大きな期待をしているが実情が伴わない。コロナの収束を待つばかり。（小売業）
- 婚活パーティーを以前のように開催できず（サービス業）

### ⑤ その他

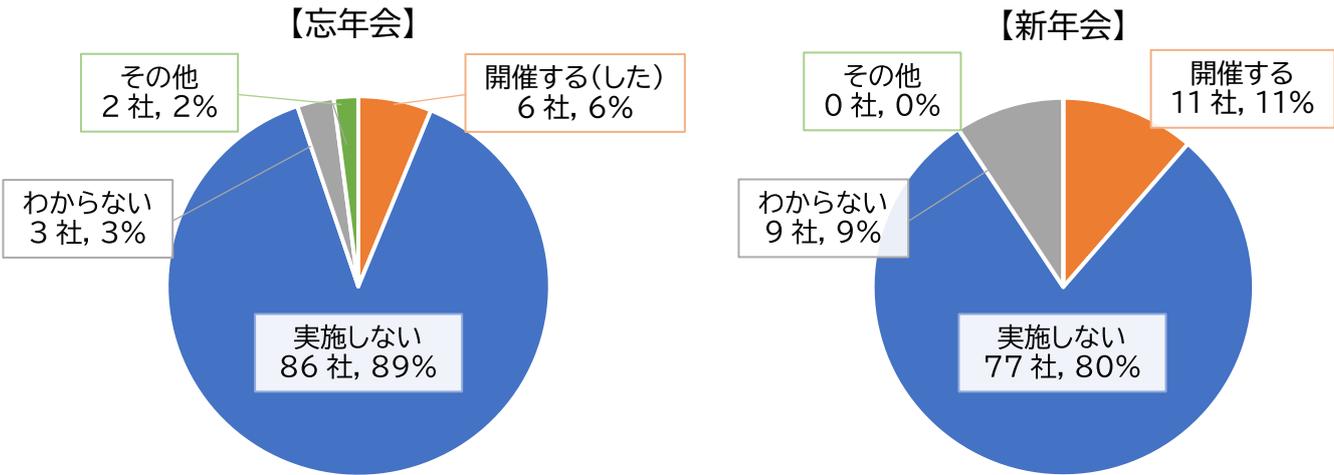
- 国のコロナ融資を受け、3年後に返済が開始されるが不安（製造業）
- 生産設備の老朽化（製造業）
- ゼロカーボンへの取組（建設業）
- 働き方改革の取り組み（特に残業時間の短縮）（建設業）
- 少子化による対象市場の減少。デジタル化に伴う主力販売商品の需要減少（小売業）
- 福利厚生があまりされていないこと。（小売業）
- もはやコロナ禍ではなくこれが通常の状態と捉えるべき、新しい時代の到来であり経験年数に関係なく、皆平等にスタートラインだと考えるべき。経営不振を未だコロナを理由にしている同業者がいること（サービス業）
- 高齢のお得意様が亡くなったり、年末の雪の影響だったり、客足が伸びなかった感がある。（サービス業）

# 忘年会・新年会に関する調査

コロナ禍となって3年目の歳末を迎え、道内では10月中旬より第8波の感染者数が急増。そうした中、「忘年会・新年会」の開催へのハードルが上がったようです。本調査は市内事業者へ「忘年会・新年会」に関する調査をインターネット（Google Forms）、FAXにより実施しました。【回答 97 社】

## 忘年会・新年会の開催について

### ■Q1.貴事業所の忘年会・新年会について



当地域では歳末、第8波により新規感染者が爆発的に増加し、「開催する（した）」は、忘年会が6社（6%）、新年会が11社（11%）に留まりました。「実施しない」は、忘年会が86社（89%）、新年会が77社（80%）と大多数を占めました。「わからない」は、忘年会が3社（3%）、新年会が9社（9%）、「その他」は忘年会でのみ2社（2%）で「新年会を検討」、「秋に観楓会を開催」といった回答が得られました。「開催する（した）」と回答した事業者のうち、忘年会・新年会両方共に開催する（した）と回答した事業者は4社でした。

また、新年会、忘年会に対する意見の中で、コロナ感染状況の様子見をしている事業者が多く、中には「従業員が希望していない」、「社員の参加意識が低くなっている」や、「社員の団結には必要な行事」、「少し収まれば少人数で飲食はやりたい」等賛否の声が聞こえました。

■Q2.Q1で「開催する（した）」と回答とされた方に伺います。忘年会・新年会の開催方法について

【開催方法について】

	忘年会	新年会
会社全体で開催する(した)	2社	8社
店舗・部署・班単位で開催する(した)	3社	3社
その他	1社	0社

Q1で忘年会、新年会を「開催する（した）」と回答した6社、11社から開催方法についてそれぞれ回答を得ました。「会社全体で開催する（した）」は、忘年会が2社、新年会が8社とコロナを不安視する中での開催につき、「密にならないよう心がける」「感染対策の上開催する」との言及がありました。また、「店舗・部署・班単位で開催する（した）」は、忘年会が3社、新年会が3社となりました。

■Q3.Q1で「実施しない」と回答とされた方に伺います。これまでの忘年会・新年会の実施について

【これまでの実施について】

	忘年会	新年会
コロナ禍以前は実施していた	61社(71%)	34社(44%)
コロナ禍以前から実施していなかった	25社(29%)	43社(56%)
その他	0社(0%)	0社(0%)

Q1で忘年会、新年会を「実施しない」と回答した86社、77社からこれまでの実施についてそれぞれ回答を得ました。「コロナ禍以前は実施していた」は、忘年会が61社(71%)、新年会が34社(44%)。「コロナ禍以前から実施していなかった」は、忘年会が25社(29%)、新年会が43社(56%)となりました。コロナ禍以前に忘年会・新年会を実施していた7割、4割の事業者は開催を見合わせている状況となっています。

# 忘年会・新年会に関する等記載事項

## With コロナ時代における忘年会・新年会に対する意見

### ① コロナの影響を踏まえた意見

- 現在のような状況が続くようであれば、今後も開催はしない。
- 対策をしての実施は検討しているが、感染力の強さから控えるべきとの方向
- 新型コロナの感染力は強いが、もうインフルエンザ並みの弱毒さなので気にしないで忘年会・新年会を開催して良いと思う。ただし、高齢者は自分の体調を見ながら参加の有無を決めること。是非、街の活性化の為に、夜の繁華街に出たら良いと思う。
- インフルエンザと同じ扱いになるのであれば開催を考える（他2件）
- コロナ以前のように、にぎやかには出来ないと思う。
- 社内で数名がコロナに感染し、飲み会等で感染したわけではないが大人数での会食はまだ早いと思う。（どこで感染するかは全く持って予想できない）
- 感染対策をしていけば、開催しても良いのでは…

### ② 開催時の工夫

- 会社全体での実施から、少人数の部門単位での実施に替えていく（他2件）
- 当社では、大勢が一斉にではなく、3~4人ずつ社長と食事をする機会を作った。皆もこうしたらいいのにと感じた。一人と会話する時間が多く取れるので、親睦を深めるというよりも、互いに相手を理解する時間となり、有意義に感じる。
- 挨拶のみで、飲食はなく手土産のみ

### ③ 懇親の場の需要について

- そもそも従業員が忘・新年会を希望していない。
- 世代差もあるが、懇親の場自体の需要が弱まっている
- コロナ時代に関わらず、もう開催しなくしても良い行事である
- コロナに関わらず社員の参加意識が低くなっている
- 業種柄たくさん会社さんに開催してもらいたい
- 飲食店応援の観点からも、できるだけ行いたい
- 社員の団結には必要な行事
- 少し収まれば少人数での飲食はやりたい
- 参加強制はしていないが、社員は殆ど参加したい意向あり。

### ④ その他

- 対面での開催に制限がない世論を醸成したい
- 基本は経済を回すためにも、普段通りの生活をすべき。ただリスクが大きいと判断した場合はやならぬ勇気も必要。
- 大勢の人数で集まっての開催は前時代的だと感じる。新型コロナだけでなく日常的な感染症対策（風邪やインフルエンザ等）として、商用でない限り以前までのような大人数開催による忘・新年会は、自企業や顧客・取引先に対する責任として極力避けたい。
- With コロナみたいな事を考えずに特別視せず自己努力の積み重ね
- 感染についてはさほど脅威は無いが職員が感染した場合、職員不足から現場の人数が足りなくなる為忘年会は見送っている。